

環境経営レポート  
2024年  
(2024.1.1～2024.12.31)

AIWA  
AE  
ENGINEERING

株式会社アイワ・エンジニアリング

2025年3月1日作成

私たちは、地域と  
地球の環境に配慮した  
事業者です



エコアクション21  
®環境省  
認証番号 0012796

# 目次

1. 組織の概要

P1

2. 環境経営方針

P2

3. 環境経営目標

P3

4. 環境活動計画

P4

5. 環境目標の実績

P5

6. 環境活動計画の取組結果とその評価、  
次年度の取組計画

P6

7. 主な取り組み写真

P7～P8

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び  
評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

P9

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

P10

# 1. 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名

株式会社アイワ・エンジニアリング  
代表取締役 平塚 洋一

(2) 所在地及び連絡先

本社 福岡県久留米市西町1222番地  
TEL 0942-35-3440 / FAX 0942-38-4930  
Mail info@aiwa-er.com

(3) 環境管理責任者名

工事部部长 桑原 貴之

(4) 事業の概要

電気工事業 福岡県知事 許可(特-4) 第65576号

(5) 事業の規模

資本金 2,000万円 / 事業年度 1月~12月

	単位	2022年度	2023年度	2024年度
売上高	百万円	284	258	763
従業員数	人	12	13	13
床面積	m <sup>2</sup>	325.17	325.17	325.17

(6) 対象組織



(7) 認証・登録の対象範囲

対象組織.....全体(本社・作業現場)  
対象活動.....電気工事業

## 2. 環境経営方針

### 【基本理念】

株式会社アイワ・エンジニアリングは、電気設備工事の施工に伴う環境負荷の削減が社会的責務と考え、地球環境の保全と事業活動を両立させることで社会に貢献していきます。

### 【行動指針】

次の事項に取り組みます。

- (1) 省エネルギーにより、二酸化炭素排出量を削減します。
- (2) 工事廃棄物のリサイクルを推進して、リサイクル率の向上に努めます。
- (3) 節水により、水使用量を削減します。
- (4) 資材の購入は、グリーン購入適合品を優先します。
- (5) 環境に配慮した工事を行います。
- (6) 環境に関する法規等を順守します。
- (7) 全従業員が環境保全に対する意識をもって行動をします。
- (8) 事業活動からの環境負荷を把握し、環境活動計画を構築し継続的改善に努めます。

改訂 令和2年5月28日  
株式会社アイワ・エンジニアリング  
代表取締役 平塚 洋一

# 3. 環境経営目標

備考：％は、2022年度の実績をベースとして削減率又は増加率を示す。  
調整後排出量係数0.389kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用して算出。

環境目標	単位	該当事務所	2022年 1月～12月 実績	2023年 1月～12月	2024年 1月～12月	2025年 1月～12月	2026年 1月～12月
二酸化炭素 排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	全社	22,757	22,529 -1%	22,302 -2%	22,074 -3%	21,847 -4%
電気使用量 の削減	kWh	本社	19,739	19,542 -1%	19,344 -2%	19,147 -3%	18,949 -4%
ガソリン使用量 の削減	L	本社	6,344	6,281 -1%	6,217 -2%	6,154 -3%	6,090 -4%
軽油使用量 の削減	L	作業 現場	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
都市ガス 使用量の削減	m <sup>3</sup>	本社	166	164 -1%	163 -2%	161 -3%	159 -4%
一般廃棄物 (可燃ゴミ) 排出量の削減	kg	本社	302	299 -1%	296 -2%	293 -3%	290 -4%
産業廃棄物 リサイクル率 の向上	%	作業 現場	92	93 1%	94 2%	95 3%	96 4%
産業廃棄物 最終処分量 の削減	kg	作業 現場	700	693 -1%	686 -2%	679 -3%	672 -4%
水使用量 の削減	m <sup>3</sup>	本社	212	210 -1%	208 -2%	206 -3%	204 -4%
グリーン購入 の推進	-	全社	配慮する	配慮する	配慮する	配慮する	配慮する
環境に配慮した 現場施工の実施	-	全社	配慮する	配慮する	配慮する	配慮する	配慮する

# 4. 環境活動計画

## 1. 二酸化炭素排出量削減のための取組



### (1) 電気使用量の削減(担当者 井上)

- ① エアコンの設定温度を決め、実行する
- ③ 昼休み時間の消灯

- ② 使用していないパソコンの電源を切る
- ④ 照明器具・空調機フィルターの定期的な清掃

### (2) ガソリン使用量の削減(担当者 吉原)

- ① エコドライブ10の実施
- ③ 現場への相乗りを推進し車輛の稼働を減らす

- ② 近隣への移動は自転車を利用する

### (3) 軽油使用量の削減(担当者 吉原)

- ① エコドライブ10の実施
- ③ 近隣への移動は自転車を利用する

- ② 定期点検の実施
- ④ 現場への相乗りを推進し車輛の稼働を減らす

### (4) 都市ガス使用量の削減(担当者 井上)

- ① 夏の給湯を控える

- ② 省エネの電気ポットの使用



## 2. 廃棄物排出量削減のための取組



### (1) 一般廃棄物(可燃ゴミ)排出量の削減(担当者 井上)

- ① 分別によるリサイクルの推進

- ② コピー用紙の両面使用

### (2) 産業廃棄物リサイクル率の向上(担当者 吉原)

- ① 分別によるリサイクルの推進

- ② 転用可能な資材の活用

## 3. 水使用量削減のための取組(担当者 井上)

- ① 節水ラベルの貼付

- ② 節水コマの取付



## 4. グリーン購入の推進のための取組(担当者 井上)

- ① グリーン購入品相当事務用品の調査購入

- ② グリーン購入品相当資機材の購入・再生品利用率の把握

## 5. 環境に配慮した現場施工の実施のための取組(担当者 吉原)

- ① 工具等の故障時には、可能な限り修理する事で長期使用に努める

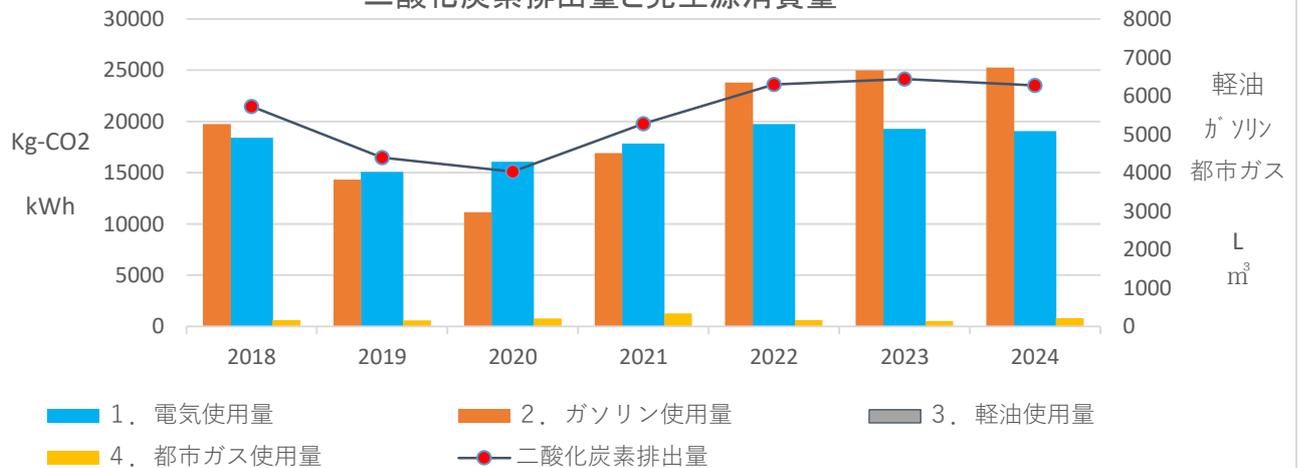
- ② 現場近隣の清掃を積極的に行い環境美化に努める

# 5. 環境経営目標の実績

使用電力の二酸化炭素は、九州電力の2022年度調整後排出量係数0.389kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用して算出した。

環境目標	単位	2022年実績	2024年目標	2024年実績	目標達成の判定	目標達成率 【目標値÷実績値】
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	22,757	22,302 月平均 1,948	23,522 月平均 2,012	×	95%
電気使用量の削減	kWh	19,739	19,344 月平均 1,629	19,054 月平均 1,607	○	102%
ガソリン使用量の削減	L	6,344	6,217 月平均 523	6,739 月平均 555	×	92%
軽油使用量の削減	L	0.0	0.0	0.0	○	100%
都市ガス使用量の削減	m <sup>3</sup>	166	163 月平均 14	215 月平均 11	×	76%
一般廃棄物(可燃ゴミ)排出量の削減	kg	302	296 月平均 25	288 月平均 24	○	103%
産業廃棄物リサイクル率の向上	%	92	94	100	○	107%
産業廃棄物最終処分量の削減	kg	700	686	3	○	22867%
水使用量の削減	m <sup>3</sup>	212	208 月平均 18	264 月平均 17	×	79%
グリーン購入の推進	-	配慮する	配慮する	配慮した	○	-
環境に配慮した現場施工の実施	-	配慮する	配慮する	配慮した	○	-

二酸化炭素排出量と発生源消費量



事務所の使用状態の変更により今年度の目標達成率は悪化しましたが来年度は目標数量を変更し、少しでも削減できるように活動します。

# 6. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度取組計画

実施できた：○ 十分とはいえなかった：△ 不十分であった：× 判断できない該当しない：-

## 1. 二酸化炭素排出量の削減

目標	活動項目	実施状況			
		1/4期	2/4期	3/4期	4/4期
<b>電気使用量削減</b> 	エアコンの設定温度を決め、実行する	△	○	△	○
	使用していないパソコンの電源を切る	○	○	○	○
	昼休み時間の消灯	○	○	○	○
	照明器具・空調機フィルターの定期的な清掃	○	○	○	○
<b>ガソリン使用量の削減</b>	アイドリングストップ	○	○	△	△
	急発進・急加速・急減速の禁止	○	△	○	○
	不要な荷物は積まない	△	○	○	○
	空気圧の適性チェック(1ヶ月1回)	△	○	○	○
	ふんわりアクセルエコスタート	○	○	○	○
	カーエアコンの適切な使用	△	○	△	△
	早めのアクセルオフ	○	○	○	○
<b>軽油使用量の削減</b>	アイドリングストップ	-	-	-	-
	急発進・急加速・急減速の禁止	-	-	-	-
	不要な荷物は積まない	-	-	-	-
	空気圧の適性チェック(1ヶ月1回)	-	-	-	-
	暖気運転は3分以内	-	-	-	-
	坂道のエンジンプレーキの使用	-	-	-	-
	定期点検の実施	-	-	-	-
<b>都市ガス使用量の削減</b>	夏の給湯を控える	-	○	○	○
	省エネの電気ポットの使用	○	○	○	○
評価	まずまず良好でした。更なる削減に努力する。				
次年度取組計画	エコドライブ10・相乗り等を推奨し、活動向上を目指す。都市ガスの目標使用量を変更する。				

## 2. 廃棄物排出量削減

目標	活動項目	実施状況			
		1/4期	2/4期	3/4期	4/4期
<b>一般廃棄物(可燃ゴミ)排出量の削減</b>	分別によるリサイクルの推進	○	○	○	○
	コピー用紙の両面使用	○	○	○	○
<b>産業廃棄物リサイクル率の向上</b>	分別によるリサイクルの推進	○	○	○	○
	転用可能な資材の活用	○	○	○	○
評価	現場増加による削減未達成はあるが、取組取組自体はまずまず良好です。				
次年度取組計画	よりデジタル化を進める。				

## 3. 水使用量削減

目標	活動項目	実施状況			
		1/4期	2/4期	3/4期	4/4期
<b>水使用量の削減</b>	節水ラベルの貼付	○	○	○	○
	節水コマの取付	○	○	○	○
評価	実施状況は良好です。				
次年度取組計画	引き続き継続する。水の目標使用量を変更する。				

## 4. グリーン購入の推進

目標	活動項目	実施状況			
		1/4期	2/4期	3/4期	4/4期
<b>グリーン購入の推進</b>	グリーン購入品相当事務用品の調査購入	○	○	○	○
	グリーン購入品相当資機材の購入・再生品利用率の把握	○	○	○	○
評価	実施状況は良好です。				
次年度取組計画	引き続き継続する。				

## 5. 環境に配慮した現場施工の実施

目標	活動項目	実施状況			
		1/4期	2/4期	3/4期	4/4期
<b>環境に配慮した現場施工の実施</b>  	工具等の故障時には、可能な限り修理する事で長期使用に努める	○	○	○	○
	現場近隣の清掃を積極的に行い環境美化に努める	○	○	○	○
評価	実施状況は良好です。				
次年度取組計画	引き続き継続する。				

# 7. 主な取り組み写真



各作業現場周辺の清掃活動



# 事故及び緊急事態の予防及び対応策

- ・サーモグラフィによる目視検査



- ・緊急事態を想定した訓練



## 2024年度ミーティング

- ・1月ミーティング



- ・4月ミーティング



- ・7月ミーティング



- ・10月ミーティング



## 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規	要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法規	一般廃棄物 委託	適正
	産業廃棄物 事業者の処理	適正
	産業廃棄物 処理基準	適正
	産業廃棄物 処理基準の遵守	適正
	産業廃棄物 保管基準	適正
	産業廃棄物 委託	適正
	産業廃棄物 委託基準	適正
	産業廃棄物 委託基準の遵守	適正
	産業廃棄物 排出責任	適正
	産業廃棄物 管理票の交付	適正
	産業廃棄物 管理票の保存と期間	適正
	産業廃棄物 管理票の写しの保存と期間	適正
	産業廃棄物 管理票交付者の報告	適正
	産業廃棄物 管理者の写しの送付を受けるまでの期間	適正
	産業廃棄物 虚偽の管理票に交付等の禁止	適正
	産業廃棄物 管理票に交付を受けずに引渡の禁止	適正
	産業廃棄物 建設工事に伴い生じる廃棄物の処理に関する例外	適正
	投棄禁止	適正
	焼却禁止	適正
	使用済み自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）	自動車の所有者の責務
使用済み自動車の引渡義務		適正
再資源化委託金等の委託義務		適正
フロン類の使用の合理化及びに管理の適正化に関する法律（フロン排出制御法）	特定製品の管理者の責務	適正
	第一種特定製品の管理者の判断の基準となるべき事項	適正
	業務用エアコン、冷蔵機器及び冷凍機器でフロン類が充填されている第一種特定製品の引渡	該当なし
	改修依頼書、委託確認書の授受	該当なし
	引取証明書の授受	該当なし
	第一種フロン類回収業者は、第一種特定製品廃棄者に対しフロン回収料金を請求できる	該当なし
	フロン類の放出禁止	適正
特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	事業者及び消費者の責務	適正
	料金の請求	該当なし

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘・利害関係者からの訴訟もありませんでした。年に1回改定を確認し、常に最新版の法規を遵守する。

# 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

## 1. 今回の取組の評価結果

環境経営方針・環境活動計画は、ほぼ実行できているが二酸化炭素排出量・ガソリン使用量・都市ガス使用量が目標に至らなかった。

## 2. 環境経営システムの評価結果

委員会でのミーティングを通して、環境経営方針・環境経営目標・環境活動計画の周知は行われている。

## 3. 見直しの結果

事務所の使用状況の変更により来年度は環境経営目標を見直す必要があるが環境経営方針・環境活動計画は継続して取組を実施する。

以上

株式会社アイワ・エンジニアリング  
代表取締役 平塚洋一